

パネルディスカッション

テーマ 『列車事故にみる安全対策と工学倫理』

内容

工学技術の発達に伴い、社会が便利で快適になる一方、ヒューマンエラーによる事故が多発しています。その一例として、多大な人身被害を出した福知山線(JR 宝塚線)の脱線事故があります。私たちが日常利用する鉄道や飛行機といった乗り物は、国民の生活や経済の発展に欠くことのできない重要なものであり、スピードアップや大量輸送などのニーズにこたえ、その技術は進歩・発達を続けてきました。しかし、国内外問わず大きな事故が後を絶たちません。

昨今ではサービス提供者が利益を偏重し、最も重要である安全性、すなわち製造者、運用者の責任についての注意を忘れがちです。技術者は本来ものづくりを行うにあたり、消費者に危害を与える可能性を考慮しながら研究開発や生産を行わなければなりません。しかしながら、自社の利益のみを考えたものづくりを行うことで、消費者に危害を与えてしまうものを作り出す可能性があります。

そこで、技術者の工学倫理とはどうあるべきかをパネリストやフロアの皆さんとともに検討したいと思います。

パネリストの紹介

齊藤 了文 (さいとう のりふみ)

関西大学 社会学部 教授

研究テーマ: 工学倫理、工学の哲学、法工学

1953 年 生まれ

1977 年 京都大学理学部卒業

1979 年 京都大学文学部哲学科西洋哲学史専攻卒業

1985 年 京都大学文学研究科博士課程哲学専攻単位取得満期退学

1987 年 大阪体育大学 専任講師

1994 年 大阪体育大学 助教授

2000 年 関西大学社会学部 助教授

2001 年 関西大学社会学部 教授

大場 充（おおば みつる）

広島市立大学 情報科学部 教授

1949 年 東京生まれ

1973 年 青山学院大学 理工学研究科 修士課程修了

1974 年 日本アイ・ビー・エム(株)入社 プロダクト・テスト・ラボラトリー

1982 年 同 サイエンス・インスティテュート(現東京基礎研究所) 主任研究員

1990 年 米国IBM エンタープライズ・システムズ出向 副主管研究員

1993 年 日本アイ・ビー・エム(株) SE 研究所 副主管研究員

この間、国際標準化機構 SWG1(OS インタフェース標準化)日本代表、IEEE Trans. on SE 編集委員、IEEE ISSRE プログラム委員長、IEEE ICSE プログラム委員等を歴任、現在、総務省電子自治体あり方検討会委員、総務省電子政府推進委員会委員。

米国 IBM 勤務中に NASA のスペースシャトル搭載コンピュータ制御プログラムの高信頼化研究や、IBM の大型汎用機用 OS の高信頼化研究を担当、メリーランド大学、ケース・ウェスタン大学、奈良先端科学技術大学院大学との共同研究を実施。

鷺尾 誠一（わしお せいいち）

岡山大学大学院 自然科学研究科 産業創成工学専攻 教授

研究テーマ:キャビテーション初生メカニズム、油圧機器特性とモデル化、流動帯電現象

担当科目:力学、制御理論、波動論、(振動工学、計測工学)

注)括弧内は過去に担当

1965 年 京都大学工学部機械工学科卒業

1970 年 京都大学大学院工学研究科博士課程修了

1970 年 京都大学工学部 助手

1982 年 岡山大学工学部 助教授

1989 年 岡山大学工学部 教授

学生パネリストの紹介

川本 真行

広島市立大学大学院 情報科学研究科 知能情報システム工学専攻 博士前期課程 2 年

宍戸 孝行

岡山大学 教育学部 教員教養課程 小学校Ⅱ類 4 年

司会者の紹介

安川 幸宏

岡山大学大学院 自然科学研究科 電子情報システム工学専攻 博士前期課程 1 年